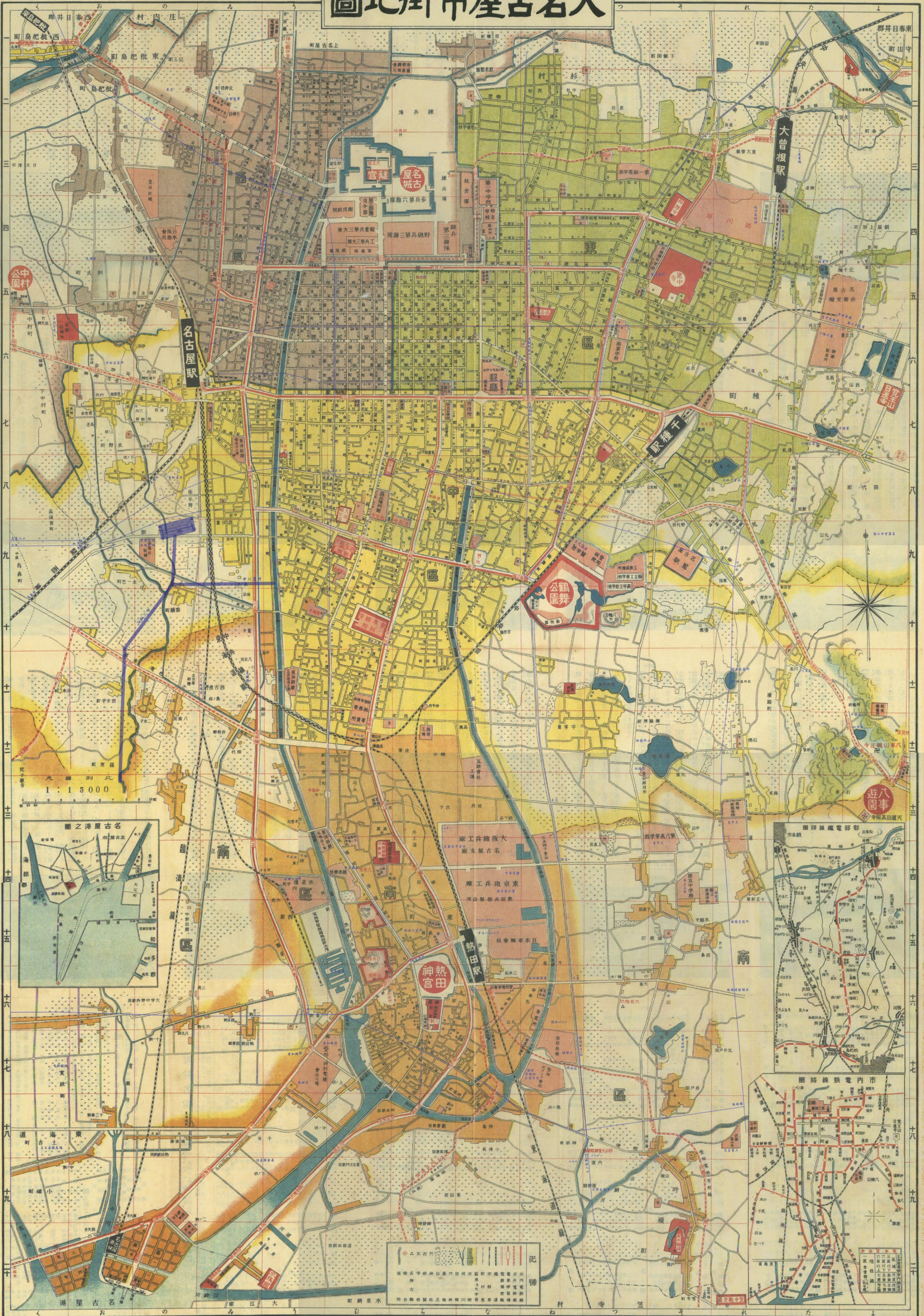




がなばれ名古屋商人！

大正時代版



名古屋の米騒動
米価は凶作で大正7年になると前年比5割増と暴騰。鶴舞公園に群衆が集まり、8月12日に3万人に膨れ上がり、栄まで繰り出して米屋などを襲撃。名古屋城の陸軍第3師団が鎮圧。この絵は栄交差点から東を見たもの。米騒動絵巻、桜井清孝。徳川美術館蔵。



熱田神社と東海道線との間には運河があった。現熱田図書館やパレマルシェはその埋立地の土の上に建っている。

日清戦争の戦役記念碑は高さ22m、砲弾スタイルで、現中区役所の交差点（へー七）にあったが、大正9年に梵王山に移された。

陸軍省の東京砲兵工廠熱田兵器製作所（あー十四）は明治37年にできた。また兵器工場は現千種公園近辺（たー六）にももたらされた。

名古屋商會議所（国商工會議所）は、明治29年に栄町7丁目で会館（へー七）を建築した。大正11年に大池町（へー十三）に移転した。金額は、奥田正善（まさか）が明治26年から長期にわたり務めたが、道徳を糧に転移する疑難事件に巻き込まれて辞任した。後任は材徳木材の鈴木徳兵衛（そうべい）が就任し、大正9年までの地位であった。その後は上達野郎の助（かど）のとのすけが就任し、昭和2年まで務めた。

大須観音の近くで明治9年に道場が公認され「地所」となった。若松町、花園町（あー十一）に多数の産屋敷が並んで、最盛期には絞屋105軒、絹織318人に達した。大正13年に中村大門（あー六）に移転した。

大正時代の一流料理家は、河文（りー四）のほか、大又、魚平（百春楼）、近道、御納屋、川島が代表的なところで、他に魚の煙通と呼ばれたところがあった。また大衆的な店としては東洋本店、茗房、八千太（あー十二）も人気があった。

奥田佐吉は、大都市の一流の財界人が集まって明治40年に設立された豊田式織機（島崎町、現中区区名駅二丁目32番3号、あー五）で常務になっていたが、辞任に追い込まれた。失意のうちに米國視察に行き、帰国後の明治44年には栄生町で3千坪の土地（現トヨタテクノミュージアム、のー三）を借り入れて自動織機工場を作った。この豊田自動織機工場は改組し、大正7年に豊田紡織（株）となる。大正10年には上海でも豊田紡織廠を設立した。大正11年には刈谷で10万坪の工場用地を買収。大正13年には無停止特許（ひがえ）式豊田自動織機（G型）を完成。大正15年には豊田紡織から分離独立して豊田自動織機製作所が誕生した。豊田自動織機製作所は、昭和8年に自動車部を作り、それが昭和12年に独立してトヨタ自動車工業（株）となった。事業に成功した後には建てた家は、現在ダイキン工業になっている（あー一）。

奥田第一郎は、酒造の祖父母によって育てられたが、3歳の時、再婚した佐吉に呼び取られ、武平町3丁目15（あー五）で暮らした。高島尋常小学校（現桜葉小学校）、田原明徳中学校（現公立明徳高等学校、当時と場所が異なる）現在の私立東海高校（いー二）で学んだ。大正元年、明徳中学校の4年生の時、第一は上級学校への進学を志したが学費問題に直面していた。建設中だった栄生工場の現場に何家も遊び（父）のこの工場を遊ぶ（父）のこの工場を遊ぶ（父）と知っていた。大正9年に東大工芸部を卒業し、大正10年に豊田紡織に入社した。大正15年に豊田自動織機製作所が設立されると常務に就任。家は白壁だった（あー一）。

松坂屋の伊藤次郎左衛門家は、明治43年に（株）いと呉服店を設立し、子（松）の松（すけみ）が社長に就任。茶屋町（りー三）から出て、栄町（現丸栄スカビル）昔の名古屋市役所の跡地（とー七）で名古屋初の本格的なデパートをオープン。現本店の東大津通に移転したのは大正14年。

鉄砲町の岡谷興機（りー八）は、大正時代に入ると10代目の清治郎が実業の経営を取り仕切るようになっていた。清治郎は大正15年には10代目惣助を襲名した。日本の重工業は第1次世界大戦の勃発後に飛躍するが、それを背景にして業績を伸ばした。また、社長のほかにも愛知時計、名古屋製陶所、愛知物産組、大隈鐵工所などの経営に関与した。昭和8年には名古屋商工會議所の会頭に就任。なお、伊藤祐松と清治郎は従兄弟にあたる。

材徳木材（をー六）は、明治8年に8代目鈴木徳兵衛が実業を継ぎ、家業の再建に成功した。奥田正善の跡を受けて大正2年に名古屋商會議所の会頭に就任。関した会社は、愛知時計電機、日本製鋼所、愛知木材、名古屋倉庫、名古屋瓦斯などと数え切れない。名古屋市長も務めた。上前津に龍門町（ちー十三）という広大な荘園を持っていた。その建物は移築されて、現在三菱東京UFJ銀行が瑞穂区で迎賓館（瑞穂荘）として活用。

河村組は、明治37年に日本陶器商會を設立し、現西区別所町（のー四）で工場を建設。大正8年には、がいの部門を分社して日本磁器を設立。昭和11年には、日本磁器から分社して日本特殊陶業を設立。

愛知時計は、日露戦争以後は兵器製造にも乗り出した。大正元年に栄生町から東川町97丁目に移転。更に大正11年に熱田千（うー七）に移転。その規模は現在よりも大きく、現熱田高校もその敷地内だった。青木謙太郎は、大正15年に社長に就任し、重工業家として発展させた。